

交流会では、給食も食べていただきました。数十年前ぶりという方もおられ、脱脂粉乳の思い出話も聞いていました。おいしいと感じたことは一度もなかったそうです。

令和7年3月18日

第41号 文責 田中 宏和

「もう、うれしくてうれしくて……」
ちょうど一週間前、本校近隣在住の高齢のご婦人が突然訪ねて来られました。本校六年生の尾崎愛花さんからもらった感謝のお手紙（右）に、ものすごく感激、感動されたことをわざわざ伝えにいられたのでした。その感激の様子にこちらでも嬉しくなっていました。目頭が熱くなりました。

同地区の民生委員さんの話では、ご婦人は見守り隊ではないものの、毎朝子どもたちの登校時に見守りをしてくださっているそうです。「私が好きで行っているだけだから……」とおっしゃいますが、その優しいお気持ちには子どもたちの胸に届いていました。愛花さんは六年にわたる「おばあちゃん」との交流の中で、あいさつの良さを肌で学んだのです。とても貴重な一生物の学びです。愛花さんもそれがわかるからこそ、こうした感謝の手紙を送ったのだと思います。聞いた私たちも無性にうれしくなりました。聞けば皆がうれしくなるような話です。それが身近なことなら、もっとうれしくなります。道徳の教科書に掲載したくなるほどの、いや掲載すべきだと思えるほどの、心にジーンと染み入る人と人とのすばらしい交流でした。このように人と人とのやりとりによってお互いが益々元気になっていく……、西南小校区はそんな地域を目指したいと改めて思いました。

おはあちゃんへ
こんにちは。6年間おばあちゃんのやさしい笑顔のあいさつで、毎日毎日支えられている尾崎愛花です。私は、6年間ずっと、雨の日も雪の日も、晴れの日も毎日毎日私たちを見守っているおばあちゃんがとてもすごいと、感激しました。私なら絶対にできないと思います。

私はもともとあいさつをすることがとても苦手でした。でもおばあちゃんのあいさつを受けると、心のモヤモヤしていたことも、いっしょになくなって、心がだんだんと晴れてきて、あいさつ、相手も自分も、やりわかい気持ちにすることを知りました。これをきっかけに家で、あいさつの練習をしたりしてたくさんの人にあいさつをしました。

最初は、もちろんうまくいかなかったけれど、みんなを笑顔にするおばあちゃんをお手本して、みんなを笑顔にすることができました。今では自分からあいさつをすることもできるようになったところです。これは、おばあちゃんのおかげだと思っています。このことは、心から本当に感謝します。そして、これからもおばあちゃんの笑顔を見たいので体調には気を付けて下さい。

尾崎愛花より

さて、地域交流の場として本校にコミュニティルームを作りました。ここは、地域・保護者・児童・職員・他学校関係者の五者が交流するための部屋です。本校の一五〇周年記念事業「ミナミちゃんルーム」の可能性は未知数です。PTA活動にも当然使っていただきたいし、地域の公民館等で行われているような活動にも子どもたちとの関連があれば使っていただいていると思います。また、授業参観日などは保護者同士や保護者と職員の交流スペースとして活用していただくことも考えています。そこにもいつもお世話になっている地域の方々にも来ていただければ、なお良しです。また、以前あった子どもたちの勉強を地域の方々にも見ていただく寺子屋の取組が復活できたらいいなあとも考えています。このように「ミナミちゃんルーム」は、子どもたちの成長を地域全体で見守っていくための中心地や起点をイメージしています。

三月十四日（金）は、一五〇周年記念事業実行委員会でお世話になった方々を中心に、二四名の地域の方々においでいただきました。「ミナミちゃんルーム」のお披露目を兼ねて交流会を行いました。学校評価結果や子どもたちの様子などをお伝えするとともに、「ミナミちゃんルーム」の趣旨やそれに伴う学校からお願いなどもお伝えしました。地域の方々には、質問だけでなく学校の清掃を手伝わせて欲しいなどのご意見もいただきました。それは、ありがたくも早速の交流アイデアでした。最後は給食も食べていただき、「楽しかった」と言ってお帰りになりました。

様々な機会に保護者や地域の方々には学校に来ていただくためには、ウィンウィンの関係作り、場作りが必要だと以前読んだ本にありました。このウィンウィンとは、こうして学校での時間を楽しんでいただくことや、（↑）上段の出来事のような心の交流に他ならないと思います。こんな琴線に触れるような話を、五者で度々語り合いたいのです。だから、「ミナミちゃんルーム」にはティッシュも用意しておきます。